

平成24年度自己評価

A:3.3以上 B:2.5以上3.3未満 C:2.5未満

重点項目	学年・部・委員会	評価項目・具体的取り組み	NO	評価基準				評価	取り組みの状況と改善の方策	学校関係者評価
				4	3	2	1			自己評価の適切さ
学力の向上による進路保障 ①授業力の向上 ②生徒の学力の向上 ③生徒の自己実現に向けた進路支援	1学年	基礎基本的事項の習得を図り、個々の進路希望に対応できる学力の養成に努める。	1	個々の学力・適性を把握した上で十分な学習指導ができた。満足な効果があった。	個々の学力・適性を把握した上で十分な学習指導ができたが効果については、更に工夫を要する余地がある。	個々の学力・適性の把握はできたが学習指導を更にする必要があった	個々の学力・適性の把握が不十分で学習指導を更にする必要があった	3.04 B	生徒個々の学力把握はほほできたと思えるが、今以上に教科間の横の連携を密にし、細やかな指導をする必要がある。	「学力の向上による進路保障」では、おおむね高い評価である。1年生はまだ意識が低い。2年生は生徒も慣れてくるので、指導のタイミングというのはむずかしいだろう。3年生では進学の意識の高さがうかがえる評価になっている。 「生徒の学力を向上させるために、常に教材研究や研修に務め、授業改善を試みる」の評価が低い。授業に対する価値観、意識改革が不十分なのか。知識をつめこむだけの旧態依然としたものが一方であるのではないか。 進路指導の評価が高いのは、学年を通じて3年間の一貫したシステムが確立されているからと思われる。 SSHの発表会は、中間発表も含め、内容が充実したものであった。
		教科学習・進路学習やLHRIにおける指導により進路を思考する態度の育成を図る。	2	個々の生徒に応じた確かな進路情報を提供でき、自らの進路を常に意識することができた。	個々の生徒に応じた進路情報を提供でき、自己の進路を自立的に考えることができた。	一般的な進路情報を提供し、自己の進路を考える機会を与えることができた。	個々の生徒に応じた進路情報を提供できず、また生徒も進路意識をまったく持っていない。	2.89 B	様々な進路情報を提供できたが、個々に応じた細やかな情報までは提供できなかった。生徒は高い進路意識を持つことが出来た。	
	2学年	学年集会・学年保護者会・学級懇談会・三者面談を通して、進路実現のための確かな情報提供を行うとともに生徒の希望・学力を把握して持続的に指導を行う。	3	個々の生徒に応じた確かな進路情報を提供し、懇談会・面談の質も向上した。	個々の生徒に応じた進路情報を提供し、懇談会・面談の内容が改善された。	一般的な進路情報を提供し、懇談会・面談の内容がほほ改善された。	個々の生徒に応じた進路情報を提供できず、懇談会・面談の内容が改善されなかった。	3.05 B	内容・量はおおむね良かったと思われるが、タイミングについては、生徒の学力・意識を見ながら進路指導部とも連携して検討する必要がある。	
		自己実現のための進路支援 個々の進路実現に相応しい学力把握、実態把握、学習計画の指導及び受験指導	4	個々の学力・適性を把握した上で十分な学習指導・受験指導ができ、素晴らしい効果があった。	個々の学力・適性を把握した上で十分な学習指導・受験指導ができ、概ね効果があった。	個々の学力・適性の把握はできたが、学習指導・受験指導においては、あまり効果がなかった。	個々の学力・適性の把握が不十分で、しかも学習指導・受験指導にもあまり効果はなかった。	3.26 B	各教科毎にセンター対策の授業や国公立の2次対策などの補習は十分な取り組みができた。受験指導については、課題の量を多くするのではなく、指導の仕方の質を高める工夫が必要である。基礎基本に立ち返って復習をする余裕のある生徒が良い結果をのこした。三者面談、個人面談、面談週間などで保護者、生徒の進路に対する思いがよくわかった。	
	教務	研究授業を行い、批評しあうことで、教科指導力の向上を図る。	5	各教科で学期に1回研究授業が行えた。	各教科で年間に1回研究授業が行えた。	一部の教科で研究授業を実施できなかった。	研究授業を実施することができなかった。	2.92 B	昨年度と違い、教務部主体で研究授業を実施しなかった結果と考える。	
		生徒の学力を向上させるために、常に教材研究や研修に努め、授業改善を試みる。	6	教材研究の為に研修会などに積極的に参加し授業改善ができて、生徒の学力向上につながった。	教材研究の為に研修会などに参加し授業改善がほほできて、生徒の学力向上が期待できる。	教材研究に努め、授業改善の見通しがあった。	新しい教材開発もせず、旧態依然とした授業であった。	2.36 C	教材の研究開発は、教師の価値観の問題もあり、意識改革が必要であると考え、この意識改革こそ教員にとって最も不得意とする部分であるからと思われる。	
	進路指導	国公立大学・難関私立大学入試に対応した進路指導の体制を強化する。 1)進路指導部と学年進路係の連携を強化し、生徒の学力・進路意識の実態の把握に努め、進路HR、面談などの充実を図る。	7	1)学力テスト(模試)、進路意識調査などを計画的に実施し、職員会議・研修会・部会などを通して報告・分析がなされて、学年との連携で進路HRや面談を充実させた。	1)実力テスト(模試)、進路意識調査などをほほ計画的に実施し、その報告・分析がやや不十分ながらも会議を通して伝えられた。学年との連携もある程度なされ、進路HRや面談にある程度は役立った。	1)学力テスト(模試)・進路意識調査などの実施がやや不十分で、報告・分析にも不十分であった。そのため、進路HRや面談が効果的になれないう場合もあった。	1)学力テスト(模試)・進路意識調査などの実施が不十分で、伝える機会を作っていない。進路HRや面談は個々の担任任せになり、進路指導部と学年との連携がほとんどなされなかった。	3.34 A	模試や進路調査の実施→分析→共有のシステムはほほ確立したので、さらに細かく有益となる分析と、それを生かす方策を探りたい。	
		2)基礎学力の補完と発展的学習の充実を目指す補習を、年間を通して計画的に実施する。	8	2)全学年、年間を通して基礎から発展的内容に至る補習が実施でき、生徒の進路実現に役立った。	2)の学年、時期にムラがあるものの、年間の中で基礎から発展的内容に至る補習が実施されてきた。	2)内容や時期には不十分な点があるが、補習計画を立てて実施してきた。	2)補習が場当たりに計画され、内容においても不十分な点が多かった。	3.03 B	特に低学年次での補習のあり方を見直し、授業との違いを明確化し、効果の上がるものに進化させたい。	
		3)進路指導委員会(検討会)の充実をはかり、きめ細かな進路指導に役立てる。	9	3)昨年度見直した進路指導委員会をさらに充実させ、目的・時期・内容共に意義あるものが複数行われた。	3)昨年度見直した進路指導委員会が、ほほ昨年度同様の形で複数回実施された。	3)昨年度見直した進路指導委員会が、時期・内容などでやや不十分ながら実施された。	3)昨年度見直したはずの進路指導委員会の実施が、時期・内容・回数ともに不十分であった。	3.25 B	昨年通りには実施できた。さらに工夫の余地の有無を検討し、意義あるものにする手立てを考えたい。	
	図書	生徒の興味・関心・進路意識を広げる蔵書を整え、読書意欲を高め、読書機会を増やす。	10	図書館利用者数、貸し出し冊数が増加した。	図書館利用者数、貸し出し冊数が増加した。	図書館利用者数、貸し出し冊数に変化がなかった。	図書館利用者数、貸し出し冊数が減少した。	2.94 B	生徒の進路選択にかかわる蔵書をより取りそろえる必要がある。	
	情報部	ICT機器を利用した授業環境の提供	11	校内全ての授業教室においてLAN環境が整備できた。	第1、第2情報教室を整備し授業環境を提供できた。	ICT機器を利用した授業環境はあまり提供できなかった。	ICT機器を利用した授業環境はほとんど提供できなかった。	2.60 B	情報教室の整備と貸し出し用ノートPCを配備した。が、ネットワークを利用した授業環境を十分に提供するには、校内全ての授業教室にLANを敷設し、インフラを整備しなければ実現できない。	
	研究推進	学校設定科目「科学・技術・社会」「科学英語」や理数科目の授業内容の充実	12	充実した内容で実施でき、新たな教材開発ができた。	実施により、一部で新たな教材開発ができた。	実施により、新たな教材開発がほとんどできなかった。	実施により、新たな教材開発が全くできなかった。	2.97 B	研究指定3年目となり教材開発は進んでいるが、来年度から始まる科学英語情報など、さらに開発を進めていかなければならない。	
		「自然科学探究」における課題研究の充実と発表会の実施	13	1年・2年ともすべての班で課題研究の発表ができた。	2年は全部、1年は半分以上の班で課題研究の発表ができた。	1年・2年合わせて半分以上の班で課題研究の発表ができた。	1年・2年合わせて半以下の班で課題研究の発表ができた。	3.61 A	今年度は、新たに2年生による中間発表会を実施でき、2月の発表会での運営指導委員の評価も高かった。来年度も10月(中間)、2月(研究)、3月(校内)の発表会を続けた。	
		評価アンケート集計による理数科目に対する興味・意欲の分析とアンケート結果のフィードバック	14	評価集計により、SSH事業実施による効果が十分に認められた。	SSH事業実施による効果がやや認められた。	SSH事業実施による効果あまり認められなかった。	SSH事業実施による効果がほとんど認められなかった。	3.09 B	夏と冬の全校生徒対象学力アンケート、冬の学科・コース対象アンケートによる分析を今後も継続したい。	

平成24年度自己評価

A:3.3以上 B:2.5以上3.3未満 C:2.5未満

重点項目	学年・部・委員会	評価項目・具体的取り組み	No	評価基準				評価	取り組みの状況と改善の方策	学校関係者評価 自己評価の適切さ	
				4	3	2	1				
豊かな人間性を持った生徒の育成 ① 規律ある態度の育成 ② 地域貢献や就業体験の充実 ③ 人権教育の充実	1学年	1) 日常の学校生活を通じて、基本的な生活習慣の確立や公共心の育成に努める 2) 掃除	15	1) 基本的な生活習慣が確立し、遅刻もなく、挨拶も非常に気持ちよくできている。	1) 基本的な生活習慣がほぼ確立し、遅刻もほとんどなく、挨拶もよくできる。	1) 基本的な生活習慣が十分には確立しておらず、遅刻も目立ち、挨拶もあまりできない。	1) 基本的な生活習慣が乱れており、遅刻も大変多く、挨拶もできない。	2.81	B	規律ある態度が徐々に育成出来てきていると思われる。まだ十分な面も見受けられるため、細かく指導していきたい。	豊かな人間性を持った生徒の育成における評価は、校風に影響されるのではないかと。校風に意識を置いて指導されたい結果が生まれるのではないかと。
			16	2) 公共心・美化意識が強く、指導無しでも意欲的に隅々まで掃除ができています。	2) 公共心もあり、割り当てられた分担区域等は責任を持って掃除ができています。	2) 公共心や清掃について指導を要するときにときどきある。	2) 公共心や清掃方法について常に指導が必要である。	2.96	B		
	2学年	1) 公共心の育成 職員室や教室における職員との対応の中で、言葉遣いをただす。 2) 公共の場を率先して美しく保つ気持ちを育てる。 生徒会執行部を学年の生徒がしっかり支え、自治意識を高める。	17	1) 挨拶がよくできており、忠告を聞く態度がよく、学んだことを反映させて会話できる。	1) どの生徒にも、全ての教師が正しい言語活動を指導できている。	1) 言語活動の指導にむらがある。	1) 正しい言語活動の指導がなかなかできない。	2.69	B	全員が自発的にとまでは至っていない。学年の足並みを揃えて指導に当たりたい。	1, 2年生の基本的な生活習慣、公共心の育成については、十分な評価が得られていない。まだまだ指導できるのではないかと。教員も高いレベルを望んでいると思われる。 人権学習については外部講師を活用しており、生徒も十分に理解できているのではないかと。
			18	2) 不特定多数が利用するものを自分のこととして、指導無しで隅々まで掃除ができています。	2) 前向きな姿勢で掃除に取り組み、適切に指導できている。	2) 集合や清掃方法について注意を要するときにときどきある。	2) 集合や清掃方法について常に注意が必要である。	2.78	B	前向きに美化に勤めていると思われる。職員も一緒に美化作業に勤めたい。	
			19	生徒会活動に積極的に参加し自治意識が高まった。	生徒会活動に積極的に参加し自治意識がほぼ高まった。	生徒会活動に積極的に参加する生徒としない生徒がはっきり分かれていた。	生徒会活動に積極的に参加しなかった。	2.95	B	生徒指導部の協力を得て、残り数ヶ月の任期を応援したい。	
			20	年間5回の人権HRを企画し、「被差別部落」を題材に人権侵害を歴史に学ぶ。	被差別部落のマイナスイメージがどのように形成されてきたかを学び、人権学習の必要性を知ることができた。	被差別部落の歴史をまなび、人権侵害を自分のこととして考えることができた。	被差別部落の歴史は把握したが、現代にもつながる問題としては考えられなかった。	HRには参加したが、学習の意義を認識しないまま、時間が過ぎた。	3.15	B	
	3学年	社会人になるにあたり人権学習で以下に取り組む ・就職時における人権意識の育成 ・他者理解を深め生命の尊さを認識させる	21	2つの内容についてほぼ全員に十分な理解をさせることができた	2つの内容についてほぼ十分な理解をさせることができた	十分な理解をさせることができたが一部において更に深く行う必要がある	2つの内容について十分に理解をさせることができたとはいえない	2.76	B	地域で活躍している有識者に講演をお願いすることで働くことの意義や命の尊さを理解させることが出来た。今後も継続して実施すべきである。	
			22	「整美」意識の高揚と清掃の徹底	日頃から高い意識を持ち、意欲的に校内美化に取り組んだ	割り当てられた清掃当番等、その責務は果たした	清掃等強制しないと取り組みできない	意識を持たず、整備等も全くできない	3.04	B	分担区全てが自分の学舎を美しくするという意識で取り組めるように生徒会美化委員会・美化委員と更にタイアップして行く必要がある。
	総務	規律のある学校生活に向けて、授業時間を確保できるよう検討する。	23	来年度に向けて具体策が決定した。	具体的な方向が検討できた。	検討することができた。	現状を変えることができなかった。	2.36	C	授業時間確保についての教員の意識が統一されていないことに原因がある。	
	生徒指導	遅刻指導の徹底	24	年間通して遅刻者0の者が80%以上あった。	年間通して遅刻者0の者が70%以上あった。	年間通して遅刻者0の者が70%以上あった。	年間通して遅刻者0の者が50%以下あった。	2.82	B	年間通じて天候で左右される。同じ生徒が遅刻し、全体に余裕を持って登校させる。	
	図書	地域貢献事業の充実を図る。	25	地域のためにいろんな事柄を計画し実施できた。	地域の依頼については実施できた。	地域の依頼については時々できた。	地域の依頼等については、ほとんど実施できなかった。	3.21	B	音楽部・ボランティア部・生徒会活動で実施。依頼が増加しているので精選していきたい	
	図書	生徒会(図書委員会)との連携を密にし、生徒が主体となる委員会活動を展開する。活動の重点は文化祭、読書会、朗読会、図書館作り作成、一斉読書などとする	26	すべての行事において、生徒が主体的に活動した。	殆どの行事で、生徒が主体的に活動した。	殆どの行事はこなしたが、生徒の主体的活動の場が少なかった。	行事が成り立たず、生徒の活動も乏しかった。	3.03	B	生徒会・図書委員以外の生徒がより多く参加できるよう、さらに工夫する必要がある。	
	保健	キャンパスカウンセラーとの連携を図り心身共に健康な生徒の育成を図る。	27	カウンセリングは19回行われ、カウンセラーとの連携が図られており、十分な効果が得られた。	カウンセラーとの連携は図られているが、時間確保が不十分で生徒へのアドバイスが十分でなかった。	カウンセラーとの連携が不十分で、しかも十分な効果が得られていない。	教育相談体制が整っていない。	3.53	B	回数増加に伴い、周知徹底を図るとともに、学年・保護者とのより一層の連携を図ってきたい。	
	研究推進	海外研修や国内研修の実施	28	定期的保健だよりを発行し、生徒の健康に対する意識を高めることができた。	定期的保健だよりを発行しているが、生徒の健康への意識は十分高まっていない。	保健だよりを生徒が読んでいないため健康に対する意識も低い。	生徒保健委員会の活動ができていない。	3.36	A	生徒保健委員会活動の活性化を図り、生徒の健康に対する意識を高めたい。	
			29	海外研修や国内研修の実施	研修計画がすべて実施でき、研修内容も含め十分な目的を達した。生徒の進路決定の補助としての役割が十分に達成	研修計画がすべて実施できたが、一部研修内容に不十分な点があった。生徒の進路決定の補助としての役割が一部達成	研修計画が一部実施できなかった。生徒の進路決定の補助としての役割が不十分であった。	計画がほとんど実施できなかった。生徒の進路決定の補助に全くならなかった。	3.41	A	今年度は、海外研修・国内研修とともに、計画通り実施できた。来年度もさらに内容の精選を行い、充実した研修としたい。
			30	各種オリンピック・数学理科甲子園への参加	オリンピック・数学理科甲子園の参加で、上位入賞を果たした。	オリンピック・数学理科甲子園の参加で、一部で入賞を果たした。	オリンピック・数学理科甲子園に参加したが入賞がなかった。	オリンピック・理数甲子園に参加できなかった。	2.25	C	オリンピック・数学理科甲子園への出場はできたが、数学理科甲子園での決勝出場はなかった。
	心の教育委員会	職員研修会と生徒向講演会の精選と充実を図る	31	職員の指導方向と生徒の人権意識の高揚につながる的確なテーマを選択し、会の運営ができた。	職員の指導方向と生徒の人権意識の高揚につながる会の運営ができた。	テーマの選択、講師依頼のどちらかが不適切であった。	テーマと講師の選択を誤り、あまり実のない会になった。	3.05	B	職員の指導方向と生徒の人権意識の高揚につながるテーマをさらに精選する。	
	特別支援教育委員会	対象生徒の実態把握および効果的な指導と校内の支援体制を整える	32	保護者・学年との連携が図られており、対象生徒に対して十分な支援ができています。	対象生徒の実態把握はできていますが、個の生徒に応じた指導が不十分である。	支援体制が十分とはいえず、適切な支援もできていない。	対象生徒の把握や校内の支援体制が整っていない。	3.05	B	保護者・関係機関との連携を図り、学年と協力して対応していきたい。	

平成24年度自己評価

A:3.3以上 B:2.5以上3.3未満 C:2.5未満

重点項目	学年・部・委員会	評価項目・具体的取り組み	No	評価基準				評価	取り組みの状況と改善の方策	学校関係者評価
				4	3	2	1			自己評価の適切さ
地域に信頼される学校づくり (①情報発信の手段と内容の充実 ②教職員の意識の高揚 ③地域との連携)	1学年	保護者との懇談会や学年通信、学級通信などを活用し、保護者との連携を密にし、学年運営を行う。	33	常に保護者との連携を密接に図りながら、円滑に学年運営ができた。	保護者との連携を図りながら、学年運営ができた。	保護者との連携は十分できなかったが、学年運営は概ねできた。	保護者との連携が十分に行われず、学年運営にも支障を来した。	3.09 B	取り組みとしては概ね達成できたように思う。さらに連携を密にした。	「地域に信頼される学校づくり」では、全体的に評価が高い。評価が高いというのは情報発信が十分である結果であると思われる。また、現在の学校のあり方を十分に意識して指導と日常業務に努力されていることに安心している。 どの学年とも保護者との連携に重点を置いている。行事がある場合は学年通信で連絡し文化祭、体育大会等に出席し、意見交換もできている。 生徒と話してみると明るく素直な生徒が多いように思う。校訓を基本とした指導がかいみることができる。
	2学年	保護者との懇談会や学年通信、学級懇談会、三者面談などを活用し、常に保護者との連携を図りながら、学年運営を行う。	34	保護者からの要望も把握し、学年通信、保護者会、三者面談等で学校の方針をしっかりと保護者に示し、円滑に学年運営ができています。	学年通信を月に1回は発行するなど多くの保護者に情報を発信し、保護者からの意見を徴集できている。	情報発信はしているが、保護者の信頼が得られるにはいっていない。	情報発信があまりできていない。	3.13 B	情報発信は十分にできていると思われるが、保護者の受け止め方を確認する作業もしてみたい。	
	3学年	保護者と懇談会や面談を通じて生徒の進路に関して十分な情報交換をして進路実現に反映させる	35	十分な情報交換ができ進路実現に反映させることができた。	十分な情報交換ができ進路実現にほぼ反映できている。	情報交換ができたが進路実現に十分反映できていないところもある。	情報交換が不十分で進路実現に十分反映できていない。	3.37 A	十分な情報交換ができたが、よりきめ細かな配慮があれば、より質の高い進路指導が出来るであろう。	
	総務	家庭・地域との情報共有	36	互いに情報交換でき、行事等は周知徹底できた。	行事等はほぼ周知できた。	行事等は半分程度しか周知できていない。	全く周知できていない。	3.09 B	早目に学年、情報部、事務・PTAと情報交換をしていく必要がある。	
	教務	教職員、地域の方々へ公開授業を行う。	37	地域の方への公開ができた。	すべての職員が授業見学した。	一部の教科で実施した。	まったくできなかった。	2.63 B	毎年実施していた6月の授業公開を今年実施しなかったことが原因であると考ええる。	
	生徒指導	通学指導	38	周囲に配慮し、自己の安全を図り通学できている。	苦情や事故に対して学年で情報を共有し、クラスで温度差なく指導できている。	苦情や事故に対して学年で情報を共有しているが、クラスにより温度差があり指導が統一できていない。	苦情や事故に対して学年で情報を共有できていない。	2.76 B	時差登校に対応しているが、交通指導、マナー教育を徹底していきたい。	
		生徒会活動・部活動等の情報をホームページで発信する。	39	たえず情報を発信できた。	学期に一度は発信できた。	年に一度は発信できた。	発信できなかった。	2.71 B	部によってさまざまである。試合結果については学期に一度は発信していきたい。	
	進路指導	進路情報の発信	40	1)月1回、進路行事などに合わせた発行により、全学年生徒の進路意識を高め、役立つ情報の提供が継続された。	1)やや不規則な発行になったが、全学年の生徒に概ね役立つ内容のものであった。	1)不規則な発行で内容も乏しく、学年に偏りのあるものになった。	1)不規則な発行で、内容も進路情報としては適切ではないものに終始した。	3.35 A	当初の目標は達成できているが、内容の充実と、各HRでの活用のあり方を見直したい。	
		2)進路資料室のPC環境の充実により、生徒の自主的な進路情報入手の支援をする。		2)PC環境を十分に整え、各生徒が自由に資料閲覧ができるシステムを構築することが出来た。	2)やや不十分なシステムではあるが、概ねPC環境が整い、生徒の資料閲覧に役立つ。	2)PC環境はほぼ整ったが、一部の閲覧システムしか構築することができなかった。	2)PC環境を整えることができず、システム作りも達成できず、従来の方法での資料閲覧のままであった。			
	図書	近隣の公立図書館との交流と連携を密にし、読書指導の充実をはかる。	42	交流と連携が十分にははかられた	交流と連携がはかられた	交流と連携が不十分であった	全く交流と連携がはかられなかった	2.89 B	公立図書館を定期的に訪れ、さらに交流をはかる機会を持つ必要がある。	
	情報部	ホームページによる学校情報の発信	43	随時必要な情報を発信できた。	定期的に必要な情報を発信できた。	あまり必要な情報を発信できなかった。	ほとんど情報発信できなかった。	2.86 B	本校を取り巻く様々な環境や大きな流れの中で、学校全体として目指すべき方向性とリンクし、かつ、学校HPの目的及び閲覧者のターゲットをしっかりとふまえた適切な情報発信が、地域との信頼関係を確立する上で必要と考えられる。	
	保健	校内救急体制を確立し、全職員に周知徹底を図り、緊急時の対応ができる。	44	職員全員が十分周知し、対応ができる。	救急体制が確立されているが、職員の対応が十分でない。	救急体制は確立されているが、職員の周知がなされていない。	救急体制が不十分で整備の必要がある。	3.31 A	全職員が緊急時の対応ができるよう周知徹底したい。	
	研究推進	SSH通信の発行とホームページによる情報発信	45	月2回以上定期的にSSH通信の発行ができ、ホームページに迅速に掲載できた。	月1回以上定期的にSSH通信の発行ができ、ホームページに迅速に掲載できた。	SSH通信の発行ができたが、月1回以下の発行であった。	SSH通信の発行ができなかった。	2.78 B	月1回以上とはいかなかったが、前半は、多くの校内向け・中学生向けのSSH通信が発行できた。来年度はより充実させたい。	
親子サイエンス教室において、コース生徒と地域の連携を図る。		46	サイエンス教室が実施でき、生徒の活動も十分に行うことができた。	サイエンス教室が実施でき、生徒の活動もほぼ行うことができた。	サイエンス教室が実施できたが、予定人数に達しなかった。または、一部で不備があった。	サイエンス教室が実施できなかった。	3.42 A	定員の2.7倍の応募があり、抽選で参加者を決定した。参加者の評価は、高評価であった。		
心の教育委員会	高丘地人協、明人協、東人教、東高人数など地域の人権諸団体との連携をはかり、人権教育の充実をめざす。	47	各協議会に積極的に参加し、人権教育の充実がはかられた。	各協議会に積極的に参加できた。	各協議会には参加したが、人権教育の向上にはつながらなかった。	各協議会への参加が低調であった。	3.18 B	協議会や人権関係の大会に、より多くの職員が参加できるよう、その体制を整える必要がある。		

<総合的な学校関係者評価>(自己評価の項目について) 概括的、総論的なことではなく具体的な計画をいれるとよく理解できるし、保護者にも賛同を得やすいのではないかと。また、(今回の項目以外で)他校にない特色ある学校運営を1つの欄として設けたらどうかと思う。どの学年も個々に対応した取り組みが改善の方策としてあがっている。創立時から見てきたがよい学校になった。保護者の方も熱心に教育に参画されている証だと思う。この学校評価では総体的には教員が創意工夫をこらして、生徒・保護者のためにされていることがうかがい知ることができる。